

はじめに

情報メディアセンターの開設をむかえて

情報メディアセンター所長 坂東昌子

情報メディアセンター…これがこの4月からの新しいセンターの名称です。この4月は、情報メディアセンター（旧・情報処理センター）を中心にしたキャンパス情報ネットワークシステム（第6期のシステム）の更新時期でもありました。いっそうの高度情報化社会をむかえ、教育研究分野の先端である大学にとって、多くの場面でマルチメディアを活用することが求められています。こうしたなか愛知大学の情報基盤環境を総合的に整備し、学生及び教職員にとって、「あらゆる場面でマルチメディアを活用できるだけの力量を身につけることができる情報基盤環境を整備する」ことを目標に新しいキャンパス情報ネットワークシステムは構築しました。また新しいキャンパス情報ネットワークシステムでは、車道新キャンパスの完成にともない、ここを全学の重要な情報発信基地としてとらえ、ネットワークを利用した先進的な情報環境を整備しました。その結果、例えば自宅等の学外から一般プロバイダ等インターネットを経由し、学内ネットワークにもアクセスすることが可能となり、学外にいながら学内にある情報基盤環境を利用することができるようになります。

さらに情報メディアセンターは、情報に関する教育や研究の支援体制を整備し、大学に関わるみなさん一人一人にとって、高度情報化時代に適応した情報スキルを学習する環境を整備することを目指しています。このことは情報メディアセンターが、情報機器といったハードウェア面のテクニカルサポートのみを提供するというものではありません。むしろ、大学に関わるみなさん一人一人が必要としている、情報スキルを身につけることこそが最終の目標です。そのため情報メディアセンターでは、愛知大学の学生にとって、入学から卒業するまでに必要な情報スキルを定義し、どのような方法で身につけるべきかを検討しています。これを実現するためには、情報教育をさらに改善する必要があると考え、情報教育に関わる教員の連携を強めるための組織的な取り組みを始めました。また情報メディアセンターがやるべきことは、学生のみならず愛知大学の教職員自身が情報発信を行え、情報メディアを十分活用できるスキルを訓練する環境を提供することでもあります。その中心的な場が、メディア教育開発室やインキュベートルラボの構想です。ここでは、教材作成や情報発信を支

援し、教育の情報化に役立つ便利な情報システムや各種のツールの開発などを推進しようと考えています。情報処理センター時代にも、例えば、新入生がコンピューターを活用するための基礎である「タイピング練習ソフト」は、センターに関係する教職員が学生達と協力して作り上げた立派な教材です。こういった伝統をさらに発展させ、学生と教員と職員が一緒になって、必要な教材や便利なツールを開発できる場をきちんと作るならば、一層の効果を発揮すると考えています。

新たに情報メディアセンターとなったこの機会に、センタースタッフともども、学生・教職員の皆さんへのサービスを強化しようと準備しています。センターのサービスについての希望や要望、またご不満な点がありましたら遠慮なく申し出てください。情報メディアセンタースタッフ一同、活気ある環境の中で、情報に関する多くのことを、一人でも多くの方に身につけてもらい、また楽しんでいただけるようにと、この機会に一層の覚悟をし、お待ちしております。